

島根県立大学
地域政策学部 地域政策学科
地域づくりコース

令和8年度（2026年度）
総合型選抜（自己推薦）

小論文

【解答時間 90分】

以下の注意事項をよく読んで指示に従うようにしてください。
指示に従わない場合は、不正行為と見なしますので、注意してください。

1. 解答開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。許可なくこの問題冊子を開いた場合は、不正行為と見なします。
2. 解答時間は90分です。
3. 試験問題は、1ページから4ページです。解答開始の合図があった後、問題冊子を確認し、印刷不鮮明な箇所等があった場合は、直ちに申し出てください。
4. 解答用紙は2枚あり、問題冊子とは別になっています。解答は指定された解答用紙の解答欄に横書きで記入してください。
5. 受験番号、氏名は2枚の解答用紙の所定欄すべてに記入してください。
6. 問題冊子の余白を下書きに利用しても構いません。
7. 試験時間中の退出はできません。
8. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

第1問 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

移住を条件として税金が投入されているのが地域おこし協力隊ですから、ただ「活動」と「地域おこし」がつながるだけでなく、そこに「外部からやってきた人ならではの」の要素も必要になります。そう考えると先ほど挙げたような、地元からは「田舎では無理！」と言われがちな活動を展開して成功してみせる、というのも移住者ならではのと言えますね。

また、協力隊の活動は地域の多くの方々とのコミュニケーションをベースに進んでいくのが一般的ですが、ここで重要なのが地域に対するポジティブな思いです。地域の方々には必ずしも地元の地域によいイメージを持っていません。地域を選択する経験のないまま長く住んでいると、最初こそ発見もあって刺激があるものの、30年、40年と同じ暮らしですから、どうしても地域資源の存在は当たり前になってしまいます。しかもテレビなどを観ていると便利でおしゃれな都会の話題がたくさん出てくる。ないものねだりではないですが、どうしても自分の地域の不足感が大きくなってきます。そして、これまでの数十年間、人は出ていくものなかなか入ってこない。するとどうしても自地域に対するネガティブな評価が強くなっていってしまいます。

それに対して協力隊はその地域を「選択」しています。これが重要だと私は思います。今や地域おこし協力隊の募集は全国にあり、地域同士で候補者の取り合いをしている状態なので、協力隊になろうとする側からすると、行く地域の選択肢はたくさんあります。そんな中から選んだ場所が今の地域。つまり、あらゆる候補の中から、個人的な条件はあるものの、ナンバーワンになったのが着任地ということです。

都市部の若者から「選ばれる」ということに、地域の方々には驚きを感じます。そして協力隊自身が地域の方々とのコミュニケーションを図る中で、「なぜこの場所を選んだのか」「何が決め手となったのか」ということを伝えることが、地域の小さな自信につながっていくのです。

特に人口増加のためや、人口減少を食い止めるべく活動を行ってきたにもかかわらず、人口流出がとまらずに閉塞感を抱えている地域の人びとにとって、再び前を向くための価値観を転換させる思考を内発的に作り出していくことは難しい。そんなときに協力隊のような、若くていかにも都会にいそうな人が地域を「選択」するということが、地域の人びとの気持ちを前に向かせるための最初の一步として重要です。

これはひとりの人間にたとえて言うならば、ちょっと(A)自信を失っている友人に対して、元気を出してもらおうべくどう声掛けをするか、ということです。多くの人はその友人が持つ「よいところ」を挙げながら励ますのではないのでしょうか。地域も人の集合体ですから、考え方は同じなのです。長く暮らしてきて、当たり前になってしまった地域の「よいところ」を挙げて、元気を出してもらおう。それが地域づくりの最初の一步になるのです。そして小さな自信を取り戻した人からは小さな前向きな発言が出てくるこ

とがあります。これもとても重要です。

これまでは新しいアイデアを出そうにも、出しづらい雰囲気がある地域が少なくありませんでした。というのも、いろんな取り組みをしては成果が上がらずの繰り返しだったため、新しいアイデアを出しても、どうしても前向きに評価できずに問題がある部分にばかり目がいてしまうのです。

よく地域社会の悪い面として「若い人の意見が潰される」という話を耳にしますが、これも同じです。潰す側は若い人から出た意見を否定したいのではなくて、自身の経験に基づいてよかれと思って助言していることも多々あります。しかし、指摘をされる側は指摘された時点で、指摘事項をクリアできず前に進めなくなり、その繰り返しでだんだんアイデアを出すこと自体をしなくなっていってしまいます。アイデアを出さなければ指摘されることもありませんから。こうして地域ではますます新しいことにチャレンジしにくい“空気感”が広がってってしまうのです。

ネガティブな空気感の漂う状況を打開するには、小さな声を後押しすることによって“小さな成功体験”を得ることが重要です。小さくとも成功体験を経て自信を深めることで、少しずつ主体的な取り組みが生まれてきます。

こうした動きはなかなか“地元”だけでは難しく、地域を第三者の視点から評価する協力隊のような立場の人がいて、地域の方々とコミュニケーションを取ることで、初めて地域の方々の気持ちも変わってくるという特徴があります。つまり、協力隊が地域の中でコミュニケーションを取っていただけでも、地域の目は変わってくるわけです。外部人材の活用はこの部分をわきまえながら進めていくことが大切です。

このように地域の状況に応じて、どのような立ち位置に協力隊を配置するかを検討することは、協力隊による地域づくりを進める上ではとても重要なことなのです。

(出典：田口太郎『「地域おこし協力隊」は何をおこしているのか？ 移住の理想と現実』星海社新書、講談社、2024年6月、113-117ページ)

※なお、作問のため前後を省略した。

問1 下線部(A)は比喩表現ですが、それが何を指すのか明確にしたうえで、「自信を失っている友人」とされたものに対する対応として、どのような行為が期待され、どのような効果を生むのか、本文の内容をふまえ600字程度であなたの考えを書きなさい。

第2問 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

8050 問題という言葉がある。80 代の親と 50 代のひきこもり状態の子供からなる世帯が、しばしば経済的に困窮したり社会的に孤立したりすることを指す。ひきこもり状態の子供の生活の面倒を見ていた同居の親が高齢となって、介護が必要となったタイミングで支援につながるケースも多いが、最悪の場合は、要介護となった親も社会的に孤立した子供も公的な支援につなげられないまま、孤立死する事件も起きている。

8050 問題そのものは、就職氷河期世代が 50 代になるより前から指摘されてきた問題だし、狭義にはあくまでも、高齢に至るまで公的支援を受けられずにいるひきこもりの子供とその親の問題だ。しかし、ひきこもり状態のようにすぐに福祉の介入が必要という段階には至っていないくても、未婚の低所得者で、実家住まいで住居と食事を親から提供されて何とか生活が回っている、といった状態の人は、就職氷河期世代以降の世代で確実に増えている。人口の多い団塊ジュニア世代が 50 代を迎え、狭義の 8050 問題への社会的関心が高まるとともに、親に経済的に依存している未婚の低所得者の問題が、いわば広義の 8050 問題として取り上げられることも増えてきている。

一方で、狭義の 8050 問題をはじめとする社会的孤立の問題と、親に経済的に依存している未婚の低所得者の経済的自立の問題は、重なる部分も大きいものの、対策としては区別して考える必要があると思う。親に経済的に依存している未婚の低所得者のかなりの割合が、収入は低くても就業はしている。彼らに有効なのは、より収入の高い仕事へステップアップするための職業訓練や、介護サービスや公営住宅などの現物給付を含む金銭的支援だ。一方、ひきこもり状態の人や長期にわたって孤立無業状態にある人には、まずは社会とのつながりを取り戻すためのきめ細やかな支援が必要であろう。

どちらの支援も必要だが、対象となる層も取るべき対応も別物である。それにもかかわらず、親に経済的に依存している未婚の低所得者の経済的自立の問題を論じる際に、なぜか長期無業者を念頭に置いた社会参加に関する議論に話題がすりかわっていきやすい。数十万人を対象とした金銭的支援となると、どうしても財源の問題が避けられないため先送りされやすい、と考えるのは邪推だろうか。

既存の社会保障の枠組みでは、就業はしているが所得が十分でない者に対する再分配がほとんどない。高齢でもなく障しょうがい碍もない場合、生活保護以外の制度がないのだ。非正規雇用から失業した場合、雇用保険の失業給付金も十分にはもらえないことが多い。2011 年より施行されている求職者支援法は、この点の緩和を目指したものであるが、あくまで職業訓練の受講を容易にするための制度であり生活保障として十分とは言えない。生活保護基準にはぎりぎり入らないような、最貧困層のすぐ上の所得階層にいる現役世代に対するセーフティネットが薄い。このことは、2000 年代に「ワーキングプア」という言葉が流行した時にすでに指摘されていたが、この 20 年でほとんど改善されていない。

出典：近藤絢子（2024）『就職氷河期世代—データで読み解く所得・家族形成・格差—』
中公新書、156 - 158 ページ

※本文中の引用文献の記載は省略した。

問 1 本文を読み、8050 問題の何が問題とされているのか、200 字程度で述べなさい。